28　明治初期の軍医学校

黒澤嘉幸

明治初期の軍医学校は創設計画から学校の廃止までの間に五つの段階を経ている。

一、国の医学を担当する軍医学校

軍医部創設を命ぜられた松本良順は、明治四年、幕府時代の医学所勤務の体験、及びオランダ医学を通じて知ったヨーロッパの軍医学校の医療の中に占める地位に基づいて、国が官費で育成する医師は軍医のみで、軍医学校を卒業した軍医が一般の医学校の教官を兼ねればよいとし、その趣旨に沿う軍医学校の建設を建議した。この建議は大学東校等に強い衝撃をあたえた。

二、軍の医療の中核となる軍医学校

明治四年、兵部省は東京に設置する軍医寮の病院は軍医学校附属大病院とすると定めているので、当時の軍医学校の在り方を推察することができる。

三、軍医寮学舎規則による軍医学校

学校の名称は軍医寮学舎、入学試験科目及び教授科目は次のとおりであった。

(一)　入学試験科目

作字、尺牘、算術、漢学、本朝歴史及び万国歴史、ラテン学、仏語学、英語学、ドイツ学、ギリシヤ学。ただし語学はいずれか一学。

(二)　教授科目

算術、読書、軍律、馬術、練兵、水練、本草学、物理学、化学、解剖学、薬品鑑定、病理論、薬性論、包帯術、有機化学、生理論、軍営医則、外科、病屍解剖学、内科、眼科、中毒論、断訟医学。

これらを見ると一般教養を持った生徒を選び、当時の医師養成と同様な教育を行ったものと考えられる。

四、軍医学校規則による軍医学校

明治六年の規則改正による軍医学校の入学試験科目及び教授科目は次のとおりである。

(一)　入学試験科目

作字、尺牘、算術、漢学、本朝歴史及び万国歴史、ラテン学、仏語学、英語学、ドイツ学、ギリシャ学、物理学、化学、解剖学、生理学、病理学、薬性学、内科、外科。ただし語学はいずれか一科目。

(二) 教授科目

算術、軍律、馬術、練兵、水練、病理学、生理学、解剖学、動物学、化学、物理学、薬性学、病屍解剖、組織学、包帯術、内科、外科、眼科、中毒論、断訟医学、軍陣衛生学、陸軍病院並屯営医論、選兵学、軍陣外科、軍陣包帯術、野営医則、陸軍病院内実験。

これらを見ると、軍医学校に入学を許される生徒は軍医寮学舎時代と異なり、基礎医学の知識を持った者であった。また教授科目も軍医に必要な軍陣医学の科目が増加していた。

五、軍医学校の廃止

明治六年、石黒忠悳は、医師教育には膨大な予算を必要とする実情から、将来の軍医教育は部内で実施せず部外に依託することが望ましいと進言した。当時の陸軍の規模を考えるとやむを得ない措置だったのである。このため、軍医学校は明治十年三月閉校にいたっている。

このように特異な歴史を持った軍医学校は部内外に大きな影響を与えたと思われるが、設立の計画から閉校までの期間がわずか六年であったため、その実像は明らかではない。

今回は学校の第一の目的である軍医養成に研究の主眼を置き、当校の卒業生が明治初期の軍医充足、及び西南戦役の衛生活動にどの程度寄与したかを検討し、当校の存在意義を明らかにするよう努めた。